

## 会 議 録

会議の名称	第6回 機種選定委員会																
開催日時	平成21年2月18日（火） 10:00～16:30																
開催場所	芳賀地区広域行政センター 3階 研修室																
公開の可否	非公開																
非公開理由	技術調査（対面）等を実施するため、調査対象企業独自のノウハウが含まれており、これらを保護する必要があることから、非公開とする。																
出席委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">栗原英隆（委員長）</td> <td style="width: 50%;">高野貞夫（委員）</td> </tr> <tr> <td>吉川博（副委員長）</td> <td>高野芳徳（委員）</td> </tr> <tr> <td>小川秀一（委員）</td> <td>豊田辰夫（委員）</td> </tr> <tr> <td>菊井豊（委員）</td> <td>永山富夫（委員）</td> </tr> <tr> <td>小久保行雄（委員）</td> <td>橋本皓朗（委員）</td> </tr> <tr> <td>笹島希一（委員）</td> <td>星光徳（委員）</td> </tr> <tr> <td>佐藤良夫（委員）</td> <td>柳昭示（委員）</td> </tr> <tr> <td>塩田進（委員）</td> <td>谷畑泰彦（委員）</td> </tr> </table>	栗原英隆（委員長）	高野貞夫（委員）	吉川博（副委員長）	高野芳徳（委員）	小川秀一（委員）	豊田辰夫（委員）	菊井豊（委員）	永山富夫（委員）	小久保行雄（委員）	橋本皓朗（委員）	笹島希一（委員）	星光徳（委員）	佐藤良夫（委員）	柳昭示（委員）	塩田進（委員）	谷畑泰彦（委員）
栗原英隆（委員長）	高野貞夫（委員）																
吉川博（副委員長）	高野芳徳（委員）																
小川秀一（委員）	豊田辰夫（委員）																
菊井豊（委員）	永山富夫（委員）																
小久保行雄（委員）	橋本皓朗（委員）																
笹島希一（委員）	星光徳（委員）																
佐藤良夫（委員）	柳昭示（委員）																
塩田進（委員）	谷畑泰彦（委員）																
会議の議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5回委員会の会議録について</li> <li>・ 技術調査（対面）の進め方について</li> <li>・ 方式別比較表について</li> <li>・ 技術調査（対面）</li> </ul>																
配布資料	<p>【資料1】 技術調査（対面）について</p> <p>【資料2】 芳賀地区広域行政事務組合新ごみ処理施設に係る技術調査方式別比較表</p> <p>【資料3】 機種選定委員会のスケジュール</p>																

## ■ 第5回委員会の会議録について

事務局より第5回会議録の内容について確認を行い、内容が了承された。

## ■ 技術調査（対面）の進め方について

事務局より、「【資料1】技術調査（対面）について」について説明。

## ■ 方式別比較表について

事務局より、「【資料2】芳賀地区広域行政事務組合新ごみ処理施設に係る技術調査方式別比較表」について説明。

A委員 : エネルギー回収量の計算方法について教えてください。

事務局 : 「エネルギー回収量の合計」から「エネルギー消費量の合計」を差し引いたものを「年間ごみ量」で割ったものが、「エネルギー回収量（収支）」となっています。シャフト炉式ガス化溶融方式の値がマイナスなのは、エネルギー消費量において、コークスの使用量が他の方式の燃料使用量と比較して多くなっていること、またシャフト炉式ガス化溶融方式では発電に注力しておりますが、発電の効率は、蒸気をそのままエネルギーとして利用する場合と比較して、効率が良くないことが主な原因です。

委員長 : シャフト炉式ガス化溶融方式では、どんなに良いごみ質のごみを処理しようが1トンのごみを処理するのに約5%（50kg）のコークスを使用するため、他の方式と比較して、エネルギー回収量、消費量の差し引きを考えると優れていないことになってしまいます。

委員長 : 「CO<sub>2</sub>総排出量」の細かい数値は各委員の手元にはっていないのですね。

事務局 : はい。詳細な数値となっており複雑なため、結果のみを委員の皆様には見て頂いております。各社から提出された資料をもとに売電を考慮したもので、別途取りまとめて、次回の委員会にご提出致します。

B委員 : 汚泥処理について、混焼率が10%を超えた場合に補助燃料が必要ということですが、補助燃料が必要となった場合にどの程度必要となるのかも知りたいのですが。

委員長 : 一般的には、10%ぐらいまでは処理が可能と言われています。

B委員 : 今回の量であれば許容範囲であり、これ以上増えると注意が必要ということですね。

委員長 : ただし、他のごみと混ぜ、ごみ質の変動を少なくして処理する必要があります。

C委員 : 表中の単位について教えてください。特に“μg（マイクログラム）”と“ng（ナノグラム）”の違い、“kg-C/ごみt”、“MJ”についてお願いします。

事務局 : μgは、10<sup>-6</sup>gで、ngは10<sup>-9</sup>gとなります。“MJ”はメガジュールであり、熱量の単位です。“kg-C/ごみt”はCO<sub>2</sub>を炭素量で表したものです。

委員長 : 1kJは、1kcal/kgの4.186倍です。

## ■ 技術調査（対面）

以下の4方式について、調査対象企業より、提出資料の内容についてプレゼンテーションを実施。  
詳細については、各企業のノウハウに関わることから非公開。

- ストーカ炉＋灰溶融炉方式（電気式灰溶融）
- ストーカ炉＋灰溶融炉方式（燃料式灰溶融）
- シャフト炉式ガス化溶融方式
- 流動床式ガス化溶融方式

## ■ その他

委員長　：　何か皆様からございますか。

特に、無いようですので、事務局からお願いします。

事務局　：　次回の委員会は、3月19日午後13時30分からでお願い致します。

あと、次回の委員会の公開／非公開についてですが、評価に関する議論にもなりますので、非公開ということではいかがでしょうか。

委員　　：　異議なし。

委員長　：　最後の評価の部分ですから、やむを得ないですね。また、次回は答申案の作成もご  
ざいますので皆様ご協力お願い致します。

それでは、全ての検討事項が終了致しましたので、事務局にお返し致します。

事務局　：　それでは、第6回機種選定委員会を以上で終了させていただきます。

以　上